

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170300141		
法人名	医療法人社団 三善会		
事業所名	グループホーム 大樹		
所在地	佐賀県鳥栖市萱方町270番地 (電話) 0942-84-0011		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 20年12月4日	評価確定日	平成 20年12月26日

【情報提供票より】(平成20年11月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	8人, 非常勤 1人, 常勤換算 8.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成20年11月5日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 91歳	最低	75歳	最高	101歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山津医院 ・ 門司歯科医院 ・ 宮の陣病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>グループホーム大樹は鳥栖市の筑紫野バイパス沿いにあり、交通の便に優れ、自然あふれる環境にある。入居者は、周辺地域の方々ばかりであり、まさに地域密着型のグループホームである。施設は病院に併設されており、入居者の通院もしくは緊急時には移動が簡単出来る。この地域の病院通院者が入居者となっているため、職員や他の入居者・家族と顔馴染みが多い。平成13年開設当初は、入居者の方々は行事や買い物へ参加できていたが、高齢・重度化されたことで個別の対応を迫られてきている。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の意見だけではなく、地域の人たちの意見等も聞き入れ、改善すべき点は取り入れられている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価を職員教育に活用し、改善に取り組まれている。また、評価結果は公開し、外部の意見も取り入れ改善に向けて取り組まれている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>家族会代表、地区老人会代表、民生委員代表、区会長代表等が参加し、入居者の状況報告、行事報告、運営に対する意見交換等を行い、利用者のサービスの質の向上に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会に来れない遠くの家族の方へも「だいきだより」を毎月発行し、行事の報告や施設の状況を知らせている。家族会を開催される際は、職員も全員参加し家族の気持ちや考えを日頃から把握する努力をしている。また、苦情があれば部長自ら家族と話し合い解決するようにしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>老人会をはじめとし、諸々の会合の世話役活動を引き受けている。また、地元中学校の職業体験を受け入れ、利用者との交流を図っている。防犯・防災については、日頃の付き合いとして地域の警察署・消防署とは連携を図っている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当初より地域への貢献を目指し、地域との交流を図るなど、地域への福祉サービスの提供を理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内に掲げ、職員は常に理念を意識しながら業務に望み、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の美化活動や奉仕作業に参加したり、老人会や地域の諸会合に参加している。また、地区内の小中学校の体験学習の受け入れや、学校行事に参加するなどの交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を職員教育に活用し、改善に取り組んでいる。また、評価結果は公開し、外部の意見も取り入れ改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会代表、地区老人会代表、民生委員代表、区会長代表等が参加し、意見交換し、利用者のサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との福祉・介護関係者とは常に密接に関係を保ち、訪問を交互に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「だいきだより」を毎月発行し送付もしくは手渡しをしている。面会時・変化がある場合はそのつど連絡及び報告している。医療については医院長が家族に直接説明している。また、金銭管理については、面会時に報告している。	○	入居者の状況の報告のみならず、職員の異動等についても、家族にとっては重要な情報であるため、便り等で報告することが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が8月第1週に開催され、職員は全員参加している。家族からの意見は一つ一つ対応し、職員への不満や苦情は管理部長が直接話を聴き対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等があった時は、入居者へ十分説明している。法人内の部署ごとの異動はあるが、同一建物内での異動となり、常に顔を合わせることができるので、入居者への影響は無い。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員への教育は、日頃から機会を設けて進めている。また、外部研修はリーダーを優先しているが、近くの専門学校で毎月行われる研修会へは参加可能な職員が参加し、ホーム内にて報告会を行ったり、資料の回覧を行うなどして周知している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、地区内の同業者と協議会を開催し、常に情報交換を行っている。また、入居者の受け入れ可能状況等についても、相互に協力し合い、入居希望者の情報交換等行われている。	○	管理者等の交流のみならず、サービスの質の向上のためにも、介護職員同士の相互見学や、他の事業所との研修会などの取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同一法人医院での入院や、法人内のデイサービス利用からの入居がほとんどで、ホーム内の職員とはすでに顔なじみの関係である。また、入居された後はホームになじまれるまでは、個別に対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔話や趣味等、本人の興味のある事柄を思い起こさせる努力をしている。しかし、年々高齢・重度化のため、一緒に何かをすることは難しくなっている。可能な範囲で、米どぎ等を一緒に行うことで、昔の生活を思い出していただくようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉かけをして本人の意向を確認するが、表情やしぐさで推測することとなるため、全体会や申し送りの時に職員間で検討し、対応の統一を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティングを毎月1回行い、生活歴や家族の意見等をもとに、職員の意見やアイデアを出し合いながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は実施期間の終了時に見直しを行い、新たな計画を作成している。また、状況に変化があれば、その都度意見を出し合い、現状に合った計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や、本人の希望に応じ、家族の宿泊や外出、買い物等、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は入居者、家族の希望によるが、入居者のほとんどが同一法人医院の医師が主治医である。他の診療科を受診される場合は、適切に医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期や重度化した場合は、併設の医院で対応することについて家族等と話し合い、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員教育を徹底し、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように注意している。記録物は一定の場所に保管し、持ち出しは禁止されている。また、面会者の確認をする等、基本的な情報管理を怠らないようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を最優先し、入居者一人ひとりのペースで生活していただくよう支援している。特に、食事においては、一人ひとりの能力に応じて、食事時間を十分にとり、それぞれのペースでゆっくり食べられるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昨年までは入居者と一緒に調理の下ごしらえなど行っていたが、高齢化によりできなくなっている。米をといたり、食器の片付けなど、可能な限り一緒に取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おきの入浴ではあるが、希望や状況に応じては毎日の入浴に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	高齢化と重度化により、これまでのような日中活動への取り組みはできなくなり、個別やグループでの特徴を活かしながら日々を過ごせるように支援されている。	○	高齢で重度化された入居者が多いグループホームのため、日中の活動や個別の活動等への新たな取り組みが望まれる。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見やドライブなど外出の行事を実施している。また、歩行が可能な入居者は可能な限り散歩へ出かけたり、車椅子の方でも天候のよい日には戸外へ出られるよう支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の施錠はしているが、日中は自由に出入りできるように施錠はされていない。また、不審者の訪問には十分注意を払っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の立会いのもと、通報、非難等の防災訓練を行っている。また、地域へは常日頃より非常時の協力についてはお願いをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を記録し把握している。給食委員会が毎月開催され、栄養士や調理師が入居者の状況を確認し、栄養管理や摂取状況の把握をしている。水分は食事の際・入浴後等飲水してもらう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃が行き届き、気になる臭いがほとんどない、広く明るいホールである。道路沿いであるが車の走行音もほとんど聞こえず静かな環境である。また、廊下は広く車椅子でも自由に行き来でき、通行や歩行を妨げるものはない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	すべての居室にトイレと洗面台が備え付けてある。入居者は自由に家具等を持ち込み、それぞれ落ちつくことができる居室作りをしている。また、重度化に伴い、電動ベッドを提供されている。		